

甲子園予選・インターハイ・水泳東北大会 壮行式 校長挨拶

野球部の皆さん。いよいよですね。

沢山の我慢をさせてきました。練習が十分にできなかった日々もありました。監督さんがせっかく組んでいた春休みの県外遠征も実現できませんでした。合宿もです。それでも皆さんは不満を言うこともなく、いつも一生懸命で素直で、そして元気でした。だから学校中のみんなが皆さんを応援しています。

様々な学校に勤務し野球部を見てきましたが、皆さんたちほどひたむきに野球をやっている生徒はいませんでした。下北から甲子園。歴代の先輩からずっと紡いできた夢を精一杯追ってください。心から応援しています。

水泳部の皆さん。4人で沢山の種目に出場ですね。リレー、100メートル、200メートル、400メートル、1500メートルなどなど。

専門のコーチもない中で、生徒自らメニューを考え、話し合い、自分たちの力だけで練習し、これだけの結果を出しました。本当にすごいことだと思います。東北大会ですね。どうか頑張ってください。応援しています。

陸上部。インターハイに進む木幡君、細川さん。

砲丸投げも棒高跳びも、どんなに大きな大会でもひたすら「自分との戦い」なのだと思います。重い砲丸を予選も含めると6回投げます。他の選手の記録も気になりながら、でもひたすら自分が投げるたった3秒の時間に気持ちを集中し、投げる姿。待っている姿。スタンドから見たことがあります。すごい競技だなと思いました。

棒高跳びは自分で高さを決め、3回飛ぶ。そんな競技です。1回目失敗しても次は飛べると信じて飛ぶ。まさに自分との戦いですよね。

こんな競技で全国に出場する生徒を誇りに思います。そして、実はあと一步のところインターハイ出場を逃した生徒も沢山います。県大会で優勝してもインターハイに行けないのが陸上の厳しさです。それほどに東北大会の壁は厳しいものです。悔しい思いをした沢山の生徒の分もどうか精一杯戦ってきてください。

全校生徒、教職員で皆さんの健闘を心から祈っています。